

新しい「ものづくり」をめざして

アイジー工業株式会社
監査役 木村 宰

新たなステージに

1970年4月創業。資本金2億5,350万円、従業員約270人、年間売上げは2005年3月期でおよそ130億円。東根市の本社の外に、県内に3工場、県外には1工場と10営業所をもち、積極的に全国的な事業展開を行っている。代表取締役社長は金田直治。

創業以来、石川堯現会長の下に、独自の発想による、新しい「ものづくり」をめざしながら、地域経済の活性化に向けて努力してきた。金属と有機系断熱材との一体化という、画期的な商品を開発して以来、徹底して自社オリジナル商品の創造に取り組み、その製造、販売を行い、住宅建材の新しいジャンルの開拓に、鋭意取り組んできた。

更に、2002年には、総合商社の「住友商事株式会社」、及び窯業系外壁材のトップメーカー「ニチハ株式会社」と、資本・業務提携を行い、「第2の創業」ともいうべき、新たなステージへと踏み出した。これまで蓄積された技術力・開発力と、強化された販売力を背景に、更に新たな発展をめざしている。まさに地方発信型企業の雄として、注目に値する企業と自認している。

なお、2005年度の新規採用は、大学・大学院卒4名、短大卒1名、高校卒4名であった。

暮らしのやすらぎをもとめて

主力製品は、一般住宅向け外壁材の「金属サイディング」。アルミ亜鉛合金メッキの特殊鋼板に硬質プラスチックフォームを貼り付けたもので、断熱、防水、防火、防音に優れた性能を持った、しかも工法的にも手軽な軽量建材として開発されたもので、現在では、国内トップシェアを占めている。

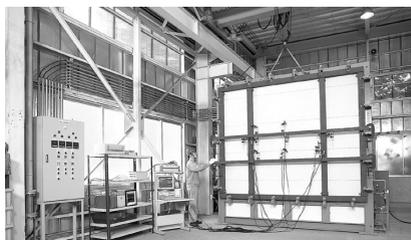
更に、その培った技術をもとに開発されたのが「ヴァンド」シリーズで、断熱フォームに厚みをつけ、両面をサンドウィッチ状に特殊鋼板で覆い、断熱性、耐火性を高め、更に外観の美しさ、加工しやすさを求めたものである。工場や倉庫など大型建築物対応の外壁パネルで、今、大幅に需要を増やしている。

その他、金属の特殊加工による屋根材「ガルバルーフ」シリーズや、セラミック外装材「本セラ」など、建物の用途、機能に応じた幅広い商品群を整えている。環境保全にも十分配慮するとともに、人に優しい、暮らしの快適さとやすらぎを求めることを基本に、開発、生産、販売に取り組んでいる。

また、2000年には、ISO9001を、2003年には、ISO14001の認証を取得している。

商品開発力

本社は創業以来、特に研究、開発に重点を置き、時代や社会の要求にマッチした商品の創造に向け努力してきた。1973年には、「ア



製品の性能試験

イジー技術研究所」を設立し、研究体制を充実した。この研究重視の姿勢は、現在でも引き続き維持され、新しく開発された技術や、知的所有権、産業財産権などは、特に尊重される体制になっている。企業として取得した特許等も数多く保有し、自社の製品開発に大いに生かすとともに、必要に応じて、広く公開することによって、その特許制度の普及、活用、発展にも寄与していると自負している。また、社会的にもそういう評価をいただき、それにかかわる各種顕彰の栄にも浴している。

子どもの頃から創意工夫を

開発には、これまでと違う分野に進出しようとする意気込みと、それに向けた思考が必要である。考えれば必ずそこにヒントが生まれ、改善につながる。そして改善から新しい商品が生まれ、新しい流通チャンネルが作られ、ブランドとなり、利益にも結びつき、それがまた次の商品の研究開発にかかわっていくという、新しい循環ができる。

新しいものに向けた、このような柔らかな発想は、むしろ子どもたちが最も得意とするところで、そのためには、子どものときから、創意工夫する生活習慣をつけさせ、発明発見の夢を育てていくことが大切である。わが社では、「アイジー基金」を創設し、県内各地の「子ども発明クラブ」の設立にもかわかり、子どもたちの活動を支援してきた。子どもたちは、自分の成果を全国大会などに出品して、恩賜賞や大臣賞など、次々と大賞をもらってきて、自信を深めている。

知的財産権の学習を

最近、工業高校のカリキュラムの中にも、知的所有権についての学習が一部導入されているが、10年ほど前までは、まだ必ずしもそういう状態にはなかった。地元の「東根工業



工場内スナップ

高校」でも、新しい工業教育のあり方についての構想検討を開始した時期で、知的所有権の学習についても、学校内で議論され、企業の実態についての研修という目的で、本社を見学するということがあった。本社としても高校側に対して、その必要性を訴え、教育課程への位置づけを強くお勧めした経過がある。その当時の、一高校の取り組みとしては、全国的に見ても、比較的早い時期のもので、多くの注目を集めた。今では、特許、実用新案、意匠などにも対応できる「ものづくり」学習を展開し、実験協力校としても、全国をリードする立場にあり、喜ばしいことである。

商品開発力をメインテーマの一つとする産業界にとっては、人材確保こそ基本であって、高校生の場合は、卒業の時点で、学科のそれぞれの専門性を究めるとともに、他の領域との連携による融合技術や、更には生産を支える諸権利まで学習するなど、幅の広さや厚みを持った人材が、特に求められている。

工業高校における、こういう新しい教育のあり方は、これからの一つの大きな方向性として、期待をもって見ているところである。

〒999-3716
山形県東根市蟹沢上縄目1816-12
TEL 0237-43-1830
<http://www.igkogyo.co.jp/>